

4 中学校 国語科 問題用紙

(11枚のうち1)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

(答えは、すべて解答用紙に記入すること。)

〔注意事項〕

- 1 答えは、すべて解答用紙に記入すること。
- 2 解答用紙は、マーク式解答用紙と記述式解答用紙の二種類がある。
- 3 マーク式問題の答えはマーク式解答用紙に、記述式問題の答えは記述式解答用紙に記入すること。
- 4 マーク式問題の答えは、問題で示された解答番号の欄にある数字をマークすること。例えば、解答番号1と表示のある問いに対して③と解答する場合は、次の(例)のようにマーク式解答用紙の解答番号1の解答欄③にマークすること。

(例)

解答番号	解答欄
1	① ② ● ④

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

4 中学校 国語科 問題用紙

(11枚のうち2)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

(答えは、すべて解答用紙に記入すること。)

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

Kyosai-guild

4 中学校 国語科 問題用紙

(11枚のうち3)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

(答えは、すべて解答用紙に記入すること。)

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

(小浜 逸郎「日本語は哲学する言語である」による。)

問一

傍線部⑦～⑩に相当する漢字を含むものを、次の各群の①～④の中からそれぞれ一つずつ選び、その番号を答えなさい。

⑦は解答番号1、⑧は解答番号2、⑨は解答番号3、⑩は解答番号4の解答欄にそれぞれマークしなさい。

⑦ セツシュ

- ① 自然のセツリに従う。
- ② チセツな作品で恥ずかしい。
- ③ 事態がセツパクしている。
- ④ 防災本部をセツチする。

⑧ コウシン

- ① 百円コウカを使う。
- ② 人心がコウハイする。
- ③ 予定のヘンコウを求める。
- ④ 夢と現実がコウサクする。

⑨ シられる

- ① 質実ゴウケン
- ② メイキヨウ止水
- ③ ゴウカ絢爛
- ④ 弱肉キヨウシヨク

⑩ クダいて

- ① サイセイ一致
- ② サイキ煥発
- ③ 粉骨サイシン
- ④ 一病ソクサイ

受験番号		氏名	
------	--	----	--

(答えは、すべて解答用紙に記入すること。)

問二 a 機微、 c 奇を衒った とありますが、これらの本文中における意味として最も適切なものを、次の各群の①～④の中からそれぞれ選び、その番号を答えなさい。aは解答番号5、cは解答番号6の解答欄にそれぞれマークしなさい。

a 機微

- ① 人それぞれが抱く感想
- ② 優しさをいたわりの心
- ③ 表面からは捉えにくい事情や趣
- ④ 決して定まることのない感情

c 奇を衒った

- ① 表現の斬新さにこだわりをもっている
- ② わざと風変わりなことをして人の注意を引こうとした
- ③ 難解なことに芸術の価値があるとする芸術観に基づいた
- ④ 分かる人だけにだけ分かればいいと聞き直った

問三 b いわゆると同じ品詞の語を、次の①～④の中から一つ選び、その番号を答えなさい。解答番号7の解答欄にマークしなさい。

- ① 穏やかだ
- ② かわいい
- ③ すこぶる
- ④ ほんの

問四 X にあてはまる最も適切な語を、次の①～④の中から選び、その番号を答えなさい。解答番号8の解答欄にマークしなさい。

- ① しかし
- ② まず
- ③ なぜなら
- ④ むしろ

問五 Y にあてはまる最も適切な語句を、次の①～④の中から選び、その番号を答えなさい。解答番号9の解答欄にマークしなさい。

- ① 極論すれば
- ② 逆も真なりで
- ③ 付言するならば
- ④ 例外はあるもので

問六 この文章の構成に関する説明として最も適切なものを、次の①～④の中から選び、その番号を答えなさい。解答番号10の解答欄にマークしなさい。

- ① ③段落では、①段落で予告された「理由」を述べ、⑤段落では、③段落の内容を詳しく説明している。
- ② ⑩段落は、⑧段落と⑨段落でまとめたことの反論を述べて、文章を展開させている。
- ③ ⑪段落、⑬段落では、論理的であることが言語として優れているという具体例を挙げている。
- ④ ⑮段落は、⑮段落、⑮段落、⑮段落で述べたことに対して予想される疑問に備えて用意されている。

# 4 中学校 国語科 問題用紙

(11枚のうち5)

受験番号	氏名
------	----

(答えは、すべて解答用紙に記入すること。)

問七 次に示す【資料Ⅰ】は21段落で例示されている『海潮音』所収の詩の一篇、【資料Ⅱ】は『海潮音』の序文、【資料Ⅲ】は『海潮音』について解説した文章、【資料Ⅳ】は【資料Ⅰ】に示す詩について解説した文章です。本文の21段落中に「種の創作」とありますが、本文における筆者の主張と【資料Ⅰ】～【資料Ⅳ】の内容を踏まえると、その「種の創作」とは、【資料Ⅰ】の詩のどのような点に表れているといえますか。その点について述べた文として適切ではないものを、あとの①～④の中から一つ選び、その番号を答えなさい。解答番号11の解答欄にマークしなさい。

【資料Ⅰ】

落葉  
 秋の日の  
 ギオロンの  
 ためいきの  
 身にしてみても  
 ひたぶるに  
 うら悲し。  
 鐘のおとに  
 胸ふたぎ  
 色かへて  
 涙ぐむ  
 過ぎし日の  
 おもひでや。  
 げにわれは  
 うらぶれて  
 こゝかしこ  
 さだめなく  
 とび散らふ  
 落葉かな。  
 (上田 敏 「海潮音」による。)

【資料Ⅱ】『海潮音』における訳詩についての上田敏の考えを述べた部分)

異邦の詩文の美を移植せむとする者は、既に成語に富みたる自国詩文の技巧の爲め、清新の趣味を犠牲にする事あるべからず。而も彼所謂逐語訳は必らずしも忠実訳にあらず。  
 (上田 敏 「海潮音」による。)

【資料Ⅲ】

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

【資料Ⅳ】

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

- ① 各行をおおむね五音になるように表現することで、伝統的なリズム感を生み出した点。
- ② 「ギオロン」とカタカナの表記を入れることで、当時の日本人に新鮮な印象を与えようとした点。
- ③ 「や」「かな」という詠嘆を表す助詞を用いることにより、和歌のような抒情を表した点。
- ④ はかなさを落葉にたとえることにより、最後の連では日本的な情感を象徴的に表した点。

問八 A この事情とありますが、筆者はどのような事情であると述べていますか。五十字以内で書きなさい。答えは記述式解答用紙に書きなさい。

問九 B 全体として優れていることを意味しませんとありますが、筆者はこのことを説明するために、どのような例を挙げていますか。その例を七十字以内で書きなさい。答えは記述式解答用紙に書きなさい。

(11枚のうち6)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

(答えは、すべて解答用紙に記入すること。)

問十 C そういう態度とありますが、これについて、筆者は古代ギリシア人を例に挙げて、どのような態度であると述べていますか。三十字以内で書きなさい。答えは記述式解答用紙に書きなさい。

問十一 D 「ことばの厚い壁」とありますが、これはどのようなことであると筆者は述べていますか。百字以内で書きなさい。答えは記述式解答用紙に書きなさい。

kyosai-guild

(11枚のうち7)

受験番号	
氏名	

(答えは、すべて解答用紙に記入すること。)

〔二〕 次の文章は「落窪物語」の一節です。中納言の娘に落窪の君と呼ばれる姫君(本文中では「君」)がいました。姫君の実母は亡くなり、今は、父である中納言と継母である北の方のいる邸で暮らしています。この姫君には、あこぎという女性が仕えています。ある時、少将は、あこぎの夫であり、自分に仕えている帯刀から、この姫君のことを聞きました。そして、少将は、「姫君に逢えるように手はずを整えてほしい」と帯刀に依頼し、帯刀もそのことをあこぎに伝えました。以下はそれに続く場面です。これを読んで、あとの問一〜八に答えなさい。(問一〜五はマーク式問題、問六〜八は記述式問題です。)

八月朔日ころなるべし。君ひとり臥して寝も寝られぬままに、「母君、我を迎へたまへ。」と「わびし。」と言ひつつ、

我に露あはれをかけたちかへり共にを消えようきはなれなむ

心なぐさめに言ひがひなし。アつとめて、物語してのついでに、「これがかく申すは、いかがしはべらむ。かくてのみは、いかがは、しはてさせたまはむ。」と言ふに、いらへもせず。わづらひてあたるほどに、「三の君の御手水まあれ。」とて召さるれば、立ちぬ。心のうちには、「とありともかかりとも、よきことはありなむや。女親のおはせぬに、さいはひなき身と知りて、いかで死なむ。」と思ふ心深し。尼になりても、殿のうち離るまじければ、ただ「消えうせなむわざもがな。」と思ほす。

帯刀、大将殿に参りたれば、「いかにぞ。かのことは。」言ひはべりしかば、しかじかなむ申す。まことにいとほけるけなり。かやうの筋は、親ある人は、それこそともかくも急げ、おとども北の方にとりこめられて、よもしたまはじ。」と申せば、「さればこそ、いまに入れよとは。婿どらるるも、いとほしたなき心地すべし。らうたうなほおぼえは、ここに迎へてむと。さらずは、あなかまでもやみなむかし。」とのたまへば、「Aそのほどの御定め、よくうけたまはりてなむ、つかうまつるべかなり。」と言へば、少将、「見てこそは、定むべかなれ。そらにはいかでかは。まめやかに、なほたばかれ。よにふとは忘れじ。」とのたまへば、帯刀、「ふと』ぞ、あぢきなき文字なる。」と申せば、君うち笑ひたまひて、「『長く』と言はむとしつるに、言ひたがへ。Bられぬるぞや。」などうち笑ひたまひて、「これを。」とて、御文。C賜へば、しづしづに取りて、あこぎに「御文。」とて引き出でたれば、「あな見苦し。何しにぞとよ。よしなしいことは聞えで。」と言へば、「なほ御返りせさせたまへかし。Dよにあしきことにはあらじ。」と言へば、取りて参りて、「かの聞えはべりし御文。」とて奉れば、「何しに。E上も聞いたまひては、『よし』とはのたまひてむや。」とのたまひて、「さてあらぬ時は、よくやは聞えたまひてや。C上の御心なつつみきこえたまひぞ。」と言へど、いらへもしたまはず。あこぎ、御文を紙燭さして見れば、ただかくのみあり。

君ありと聞くに心をつくばねの見ねと恋しきなげきをぞする

「イをかしの御手や。」とひとりこちみたれど、Dかひなげなる御けしきなれば、おしまきて、御櫛の箱に入れて立ちぬ。帯刀「いかにぞ。御覧じつや。」「いで、まだいらへをだにせさせたまはざりつれば、置きて立ちぬ。」と言へば、「いでや、かくておはしますよりはよからむ。我らがためにも思ふやうにて。」と言へば、「いでや、御心の頼もしげにEおはせば、などかはさも。」と言ふ。

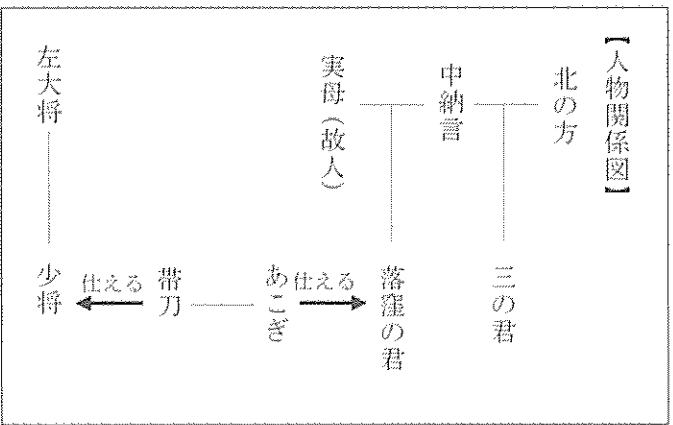
(「落窪物語」による。)

(注1) 殿 Ⅱ 落窪の君の父親である中納言を指す。

(注2) 大将殿 Ⅱ 少将の父、左大将の家。少将は父親の家に住む。

(注3) 君 Ⅱ ここでは少将のこと。

(注4) 上 Ⅱ 北の方。



(11枚のうち8)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

(答えは、すべて解答题紙に記入すること。)

問一 「御」を行書で書いたものとして最も適切なものを、次の①～④の中から選び、その番号を答えなさい。解答番号12の解答题紙にマークしなさい。

- ① 御 ② 御 ③ 御 ④ 御

問二 アつとめて、イをかしの御手 とありますが、これらの本文中における意味として最も適切なものを、次の各群の①～④の中からそれぞれ選び、その番号を答えなさい。アは解答番号13、イは解答番号14の解答题紙にそれぞれマークしなさい。

- アつとめて ① ことさらに ② さりげなく ③ 翌朝 ④ 夕方
- イをかしの御手 ① 奇妙な手紙 ② 上手な筆跡 ③ 巧妙な手段 ④ 滑稽な内容

問三 a 思はず、c 賜へ、d おはします、e おはせのうち、補助動詞であるものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号を答えなさい。解答番号15の解答题紙にマークしなさい。

- ① a ② c ③ d ④ e

問四 b ①の文法的な意味として最も適切なものを、次の①～④の中から選び、その番号を答えなさい。解答番号16の解答题紙にマークしなさい。

- ① 受身 ② 自発 ③ 可能 ④ 尊敬

問五 君ありと聞くに心をつくばねの見ねと恋しきなげきをぞする とありますが、この和歌に用いられている修辞の組合せとして最も適切なものを、次の①～④の中から選び、その番号を答えなさい。解答番号17の解答题紙にマークしなさい。

- ① 枕詞、縁語、体言止め  
② 掛詞、縁語、体言止め  
③ 掛詞、枕詞、体言止め  
④ 掛詞、枕詞、縁語

問六 A そのほど とありますが、これはどのようなことを指していますか。二十字以内で書きなさい。答えは記述式解答题紙に書きなさい。

問七 B よにあしきことにはあらじ、C 上の御心なつつみきこえたまひその口語訳をそれぞれ書きなさい。答えは記述式解答题紙に書きなさい。

問八 D かひなげなる御けしき とありますが、これは誰のどのような様子を示していますか。二十五字以内で書きなさい。答えは記述式解答题紙に書きなさい。



(11枚のうち9)

受験番号

氏名

(答えは、すべて解答用紙に記入すること。)

〔三〕 次の文章を読んで、あとの問一〜七に答えなさい。(問一〜五はマーク式問題、問六・七は記述式問題です。) なお、設問の關係で返り点・送り仮名を一部省略しています。

走ルニハ 不<sub>レ</sub>レドモ 以<sub>レ</sub>テセ 手ヲ、縛<sub>レ</sub>リテ 手ヲ 走<sub>レ</sub>バ 不<sub>レ</sub>能<sub>ハ</sub> 疾キコト。 ⑦ 飛<sub>フ</sub>ニハ 不<sub>レ</sub>レドモ 以<sub>レ</sub>テセ 尾ヲ、屈<sub>レ</sub>シテ 尾ヲ 飛<sub>ベ</sub>バ 不<sub>レ</sub>能<sub>ハ</sub> 遠キコト。 物之用ヒラルル者ハ、必ズ 待<sub>ニ</sub>ツ 不<sub>レ</sub>ル 用ヒラレ者<sub>一</sub>ヲ。 故ニ 使<sub>ニ</sub>ムル 之ヲシテ 見<sub>一</sub>者ハ、乃チ 不<sub>レ</sub>ル 見者也。 使<sub>ニ</sub>ムル 鼓ヲシテ 鳴<sub>一</sub>ラ者ハ、乃チ 不<sub>レ</sub>ル 鳴<sub>ラ</sub>者也。

嘗<sub>ニ</sub>メテ 肉<sub>一</sub>ヲ、知<sub>ニ</sub>リ 饍<sub>ニ</sub>鑊<sub>ニ</sub>之味<sub>一</sub>ヲ、懸<sub>ニ</sub>ケテ 羽ト 興<sub>レ</sub>ヲ 炭、而知<sub>ニ</sub>ル 燥湿之氣<sub>一</sub>ヲ。 以<sub>レ</sub>テ 小<sub>ヲ</sub>明<sub>レ</sub>ラカニスルナリ 大<sub>ヲ</sub>。 見<sub>ニ</sub>テ 一<sub>ノ</sub>葉<sub>ノ</sub>落<sub>ツル</sub>ヲ、而知<sub>ニ</sub>リ 歳<sub>一</sub>之<sub>一</sub>將<sub>一</sub>レ<sub>ニ</sub>ルヲ 暮<sub>レ</sub>ナント、 暗<sub>ニ</sub>テ 瓶中之<sub>一</sub>氷<sub>一</sub>ヲ、而知<sub>ニ</sub>ル 天下之<sub>一</sub>寒<sub>一</sub>キヲ。 ① 以<sub>レ</sub>テ 近<sub>キ</sub>ヲ 論<sub>スル</sub>ナリ 遠<sub>キ</sub>ヲ。

三人 A 比<sub>レ</sub>肩、不<sub>レ</sub>ルモ 能<sub>ニ</sub>ハ 外<sub>ニ</sub>出<sub>レ</sub>ツル 戸ヲ、一人 相<sub>レ</sub>隨<sub>ハ</sub>バ、 ② 可<sub>レ</sub>以<sub>レ</sub>通<sub>ス</sub>天下。

足 躐<sub>レ</sub>メバ 地ヲ 而<sub>レ</sub>為<sub>レ</sub>シ 跡ヲ、暴<sub>サ</sub>レテ 行<sub>ク</sub>バ 而<sub>レ</sub>為<sub>レ</sub>ス 影ヲ。 此<sub>レ</sub> 易<sub>ク</sub>シテ 而<sub>レ</sub>難<sub>シ</sub>。

莊王 誅<sub>ニ</sub>スルヤ 里<sub>一</sub>史<sub>一</sub>ヲ、 孫叔敖 制<sub>シ</sub>冠<sub>ヲ</sub> 洗<sub>レ</sub>フ 衣ヲ。 文公 棄<sub>ニ</sub>テ 荏<sub>席</sub>ヲ、

後<sub>ニ</sub>ニスルヤ 黷<sub>一</sub>黒<sub>一</sub>ナルヲ、 咎<sub>犯</sub> B 辞<sub>シ</sub>テ 帰<sub>ル</sub>。 故<sub>ニ</sub>木<sub>ノ</sub>葉<sub>ノ</sub>落<sub>チ</sub>テ 長<sub>ク</sub>年<sub>ノ</sub>悲<sub>シム</sub>也。

③ 罇<sub>ハ</sub>日<sub>ニ</sub>用<sub>ヒ</sub>ラルレド 而<sub>レ</sub>不<sub>レ</sub>足<sub>ラ</sub> 貴<sub>フ</sub>ニ。 周<sub>ノ</sub>鼎<sub>ハ</sub> 不<sub>レ</sub>レドモ 鬻<sub>ガ</sub> 而<sub>レ</sub>不<sub>レ</sub>可<sub>レ</sub>カラ

賤<sub>シム</sub>。 物 固<sub>ニ</sub>有<sub>レ</sub>以<sub>レ</sub>不<sub>レ</sub>用<sub>レ</sub>而<sub>レ</sub>為<sub>レ</sub>有用<sub>者</sub>。 地 平<sub>カ</sub>ナレバ 則<sub>チ</sub>水<sub>ノ</sub>不<sub>レ</sub>流<sub>レ</sub>。 重<sub>サ</sub> 鈞<sub>シ</sub>ケレバ

則<sub>チ</sub> 衡<sub>不</sub>レ 傾<sub>カ</sub>。 物之<sub>一</sub>尤<sub>ダ</sub>グ<sub>ル</sub>ルハ、 ④ 必<sub>ズ</sub>有<sub>レ</sub>所<sub>ノ</sub>感<sub>ス</sub>。 物 固<sub>ニ</sub>有<sub>レ</sub>以<sub>レ</sub>不<sub>レ</sub>用<sub>レ</sub>而<sub>レ</sub>為<sub>レ</sub>大<sub>ノ</sub>用<sub>者</sub>。

(「淮南子」による。)

(注1) 一罇 || 一切れ。

(注2) 鑊 || 鍋。

(注3) 里史 || 楚の莊王に仕えた佞臣。

(注4) 孫叔敖 || 楚の莊王の臣。

(注5) 文公 || 晋の君主。

(注6) 荏席 || 筵。

(注7) 黷黒 || 黒く日焼けした者。

(注8) 咎犯 || 文公の舅で、文公を輔佐した。

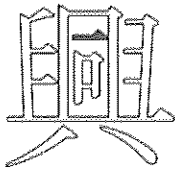
(注9) 罇鼎 || 小さな鼎。

(注10) 周鼎 || 周王室に伝わる宝で、祭器として使われた鼎。

受験番号	
氏名	

(答えは、すべて解答用紙に記入すること。)

問一 次の漢字「興」の黒く塗りつぶされている部分は、楷書の筆順として何画目にあたりますか。次の①～④の中から選び、その番号を答えなさい。解答番号18の解答欄にマークしなさい。



- ① 三画目      ② 六画目      ③ 七画目      ④ 十画目

問二 A 比肩の本文中における意味として最も適切なものを、次の①～④の中から選び、その番号を答えなさい。解答番号19の解答欄にマークしなさい。

- ① 横に並んでいること      ② 仲間になること      ③ 切磋琢磨すること      ④ 同じ力を持っていること

問三 B 辞の本文中における意味と同じ意味の「辞」を含む熟語として最も適切なものを、次の①～④の中から選び、その番号を答えなさい。解答番号20の解答欄にマークしなさい。

- ① 辞令      ② 謝辞      ③ 園辞      ④ 辞去

問四 a 可以通天下、b 必有所感とありますが、それぞれ次のように訓読する場合、どのように返り点を施せばよいですか。最も適切なものを、次の各群の①～④の中から選び、その番号を答えなさい。aは解答番号21、bは解答番号22の解答欄にそれぞれマークしなさい。

- a 可以通天下を「もつててんかにつうずべし」と訓読する場合  
 ① 可<sub>レ</sub>以通<sub>中</sub>天下<sub>上</sub>      ② 可<sub>三</sub>以通<sub>二</sub>天下<sub>一</sub>      ③ 可<sub>レ</sub>以通<sub>二</sub>天下<sub>一</sub>      ④ 可<sub>二</sub>以通<sub>レ</sub>天下
- b 必有所感を「かならずかんずるところあり」と訓読する場合  
 ① 必<sub>レ</sub>有<sub>レ</sub>所<sub>レ</sub>感      ② 必<sub>レ</sub>有<sub>レ</sub>所<sub>レ</sub>感      ③ 必<sub>有</sub>所<sub>レ</sub>感      ④ 必<sub>有</sub>所<sub>レ</sub>感

問五 c 有以不用為大用者の書き下し文として最も適切なものを、次の①～④の中から選び、その番号を答えなさい。解答番号23の解答欄にマークしなさい。

- ① 不用を以つて大用と為すもの有り  
 ② 以つて不用を大用と為すもの有り  
 ③ 不用を為すもの大用と為すもの有り  
 ④ 以つて不用有りと大用とを為す

問六 a 飛<sub>フニハ</sub>不<sub>レドモ</sub>以<sub>レテセ</sub>尾<sub>ヲ</sub>、屈<sub>レテ</sub>尾<sub>ヲ</sub>飛<sub>ベバ</sub>不<sub>レ</sub>能<sub>レハ</sub>遠<sub>キコト</sub>の口語訳を書きなさい。答えは記述式解答用紙に書きなさい。

問七 i 以<sub>レテ</sub>近<sub>キヲ</sub>論<sub>ズルナリ</sub>遠<sub>キヲ</sub>とありますが、これはどのようなことを述べていますか。見<sub>ニテ</sub>一葉<sub>ノ</sub>落<sub>ツルヲ</sub>、而<sub>知<sub>ニ</sub>歳<sub>之</sub>將<sub>ニ</sub>暮<sub>レ</sub>ナント</sub>を例に挙げて書きなさい。答えは記述式解答用紙に書きなさい。

(11枚のうち11)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

(答えは、すべて解答用紙に記入すること。)

四 平成二十九年三月告示の中学校学習指導要領 国語 に示されていることについて、次の問一・二に答えなさい。

問一 次の文章は、各学年の目標及び内容〔第2学年〕 内容〔知識及び技能〕 に示されているものです。文章中の  X

Y にあてはまる語句の組合せとして最も適切なものを、あとの①～④の中から選び、その番号を答えなさい。解答番号24の解答欄にマークしなさい。

(2) 話や文章に含まれている情報の扱い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

- ア  X、 Y など情報と情報との関係について理解すること。  
イ 情報と情報との関係の様々な表し方を理解し使うこと。

	<input type="checkbox"/> X	<input type="checkbox"/> Y
① 全体と中心		意見と根拠
② 具体と抽象	事柄の順序	
③ 意見と根拠	具体と抽象	
④ 事柄の順序	全体と中心	

問二 次の文章は、指導計画の作成と内容の取扱いに示されているものです。文章中の  Z にあてはまる適切な語句を、あとの①～④の中から選び、その番号を答えなさい。解答番号25の解答欄にマークしなさい。

3 教材については、次の事項に留意するものとする。

- (1) 教材は、第2の各学年の目標及び内容に示す資質・能力を偏りなく養うことや  Z 態度を育成することをねらいとし、生徒の発達の段階に即して適切な話題や題材を精選して調和的に取り上げること。また、第2の各学年の内容の「思考力、判断力、表現力等」の「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」及び「C読むこと」のそれぞれの(2)に掲げる言語活動が十分行われるよう教材を選定すること。

- ① 言葉を楽しむ      ② 言葉に親しむ      ③ 読書を楽しむ      ④ 読書に親しむ

五 平成二十九年三月告示の中学校学習指導要領 国語 各学年の目標及び内容〔第2学年〕 内容〔思考力、判断力、表現力等〕 B 書くこと (1) ウ には、「根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること。」と示されています。この指導事項を踏まえた授業において、自分の考えを書く言語活動を通して、考えの形成や記述に関する指導を行うこととします。これについて、次の問一・二に答えなさい。

問一 根拠の適切さを考える観点として、中学校学習指導要領(平成二十九年告示)解説国語編には、どのような観点が挙げられていますか。その観点を二つ書きなさい。答えは記述式解答用紙に書きなさい。

問二 生徒に根拠の適切さを考える観点をもたせるために、あなたならどのような指導をしますか。その指導において、生徒がどのようなことを考え、どのような活動をするのかを具体的に示して書きなさい。答えは記述式解答用紙に書きなさい。

# ④ 中学校 国語科 マーク式解答用紙

氏 名

受験番号					
①	①	①	①	①	①
②	②	②	②	②	②
③	③	③	③	③	③
④	④	④	④	④	④
⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤
⑥	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥
⑦	⑦	⑦	⑦	⑦	⑦
⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧
⑨	⑨	⑨	⑨	⑨	⑨

【記入上の注意】

- 1 余白には何も記入しないでください。
- 2 HBまたはBの鉛筆で該当する ○ にマークしてください。  
 マーク例 <良い例> ●  
 <悪い例> ◊ ◌ ⊗
- 3 訂正するときは、消しゴムで完全に消してください。
- 4 受験番号については、6桁の数字を記入したうえで、該当する ○ にマークしてください。

一	解答番号	解答欄
	1	① ② ③ ④
	2	① ② ③ ④
	3	① ② ③ ④
	4	① ② ③ ④
	5	① ② ③ ④
	6	① ② ③ ④
	7	① ② ③ ④
	8	① ② ③ ④
	9	① ② ③ ④
	10	① ② ③ ④
	11	① ② ③ ④

三	解答番号	解答欄
	18	① ② ③ ④
	19	① ② ③ ④
	20	① ② ③ ④
	21	① ② ③ ④
	22	① ② ③ ④
	23	① ② ③ ④

四	解答番号	解答欄
	24	① ② ③ ④
	25	① ② ③ ④

二	解答番号	解答欄
	12	① ② ③ ④
	13	① ② ③ ④
	14	① ② ③ ④
	15	① ② ③ ④
	16	① ② ③ ④
	17	① ② ③ ④





中学校 国語科 記述式解答用紙

(3枚のうち2)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

三				問題番号
問八	問七		問六	解答欄
	C	B		
			問一～五は、マーク式解答用紙に記入すること。	

三			問題番号
問七	問六	問一～五は、マーク式解答用紙に記入すること。	解答欄

四は、マーク式解答用紙に記入すること。

4

中学校 国語科 記述式解答用紙

(3枚のうち3)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

問題番号		解答欄
問一	問二	

kyosai-guild

中学校国語科採点基準

3枚のうち1

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答	〔例〕	採 点 上 の 注 意	配 点
問一	㉞	1		各 2 × 4
	㉟	1		
	㊱	4		
	㊲	3		
問二	㉠	3		各 3 × 2
	㉡	2		
問三	4			3
問四	1			3
問五	2			5
問六	4			6
問七	2			8
問八	日本では、欧米文化をそのままではなく、独特の消化吸収と変奏を成し遂げて受け入れたという事情。(46字)		内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	10
問九	論理性に優れた言語が、人間どうしの心の動きや、自然と人間の関わり方について、十分表現できずに取りこぼしてしまう危険性があるという例。(66字)		内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	10
問十	自分たちの文化を優れたものであると誇り、他を蔑視する態度。(29字)		内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	8
問十一	ある文化共同体のもとで使用される高度な文学的磨きのかかった言葉は、日常の共有による絶え間ない日常語の駆使によって支えられており、異なる文化共同体の言語を使用する人には容易に理解し難いものであること。(99字)		内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	12

79



中学校国語科採点基準

3枚のうち2

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 [例]	採 点 上 の 注 意	配 点	
二	問一 1		2	
	問二	ア 3		各 3 × 2
		イ 2		
	問三 4		3	
	問四 2		3	
	問五 4		3	
	問六 姫君と結婚するかどうかということ。(17字)		内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	8
	問七	B 決して悪いことではないだろう		内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。
C 北の方にお気遣い申し上げますな				
問八 姫君の、少将からの手紙に取り合おうとしない様子。(24字)		内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	8	
三	問一 3		2	
	問二 1		3	
	問三 4		3	
	問四	㉑ 2		各 4 × 2
		㉒ 3		
	問五 1		4	
	問六 飛ぶのに尾を使いはしないが、尾を折り曲げれば遠くまで飛ぶことはできない		内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	6
問七 葉が一枚落ちたことで年がまもなく暮れようとするのを察するよ うに、身近なわずかな前兆から遠い将来の大きな変化を察知するとい うこと。		内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	8	
四	問一 3		3	
	問二 4		3	

4 5

3 4

6

中学校国語科採点基準

3枚のうち3

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 [例]	採 点 上 の 注 意	配 点
問一	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 書こうとする根拠が確かな事実や事柄に基づいたものであること。</li> <li>・ 自分の考えが事実や事柄に対する適当な解釈から導き出されていること。</li> </ul>	順序は問わない。 内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	各5×2
五 問二	<p>根拠の適切さを考える観点に対応した、適切な根拠の例と適切ではない根拠の例をそれぞれ提示し、どちらが適切であるか、また、それはなぜかを説明させることを通して、適切な根拠の特徴を見いだし、根拠の適切さを考えるための観点として整理させる指導を行う。</p> <p>具体的には、次に示すような「図書室を使った授業をもっとしてほしい。」という考えとその根拠の例を、黒板やワークシート等に提示して考えさせる。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">考え：図書室を利用した授業をもっとしてほしい。</p> <p>根拠の例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>㊦： 図書委員会が行ったアンケート調査によると、全校生徒の約80%が図書室を利用した授業をしてほしいと回答している。</li> <li>㊧： 私の仲の良い友達も図書室を利用した授業をしてほしいと言っている。</li> </ul> <p>根拠の例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>㊨： 図書委員会が行ったアンケート調査によると、授業で課題を解決するために資料を集めていないと回答した生徒は約70%である。その原因として、現在は教室での授業が多く、調べたいことがあっても、昼休憩や放課後まで図書室に行くことができないため、すぐに資料を探すことができないことが考えられる。</li> <li>㊩： 図書委員会が行ったアンケート調査によると、一か月に1冊も本を読んでいないと回答した生徒が約15%いる。</li> </ul> <p>提示した根拠の例について、発問1「㊦と㊧を比較して、どちらが適切な根拠といえますか。」、発問2「㊨と㊩を比較して、どちらが考えの根拠とするのに適切ですか。」という二つの発問をする。生徒は適切な根拠であるか考えるものを選ぶ過程で、なぜ適切であるといえるのかを考えることになる。そして、その考えと理由を交流することを通して、適切な根拠の特徴として、㊦と㊧の比較から、確かな事実や事柄に基づいたものであることを、㊨と㊩の比較から、事実や事柄に内包された問題点や背景などを解釈し、そこから自分の考えが導き出されていることを、見いだしさせることができる。これらの特徴を根拠の適切さを考える観点として整理させる。</p>	問いを正しくとらえていれば、内容は異なってもよい。	3 6 2 6